

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	・国語全体としては、全学年が目標値を上回っていた。 ・観点別正答率においても、ほとんどの学年は目標値に対して同程度か目標値を上回るものが多かったが、全体的に「情報の扱いに関する事項」に課題があるといえる。中学年では、考えを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解することや、高学年では原因と結果など情報と情報との関係について理解できるようにする。言語活動においては、児童が目的や必要性を感じられる課題を設定して、自分自身で思考判断し表現して課題を解決できるようにする。
社会	・社会全体としては、5学年6学年共に目標値に対して同程度か目標値を下回っているものがあつた。さらに、主体的に学習に取り組むことができるようにし、知識の理解・定着を図り、学んだ学習内容を活用する能力を身に付ける必要がある。
算数	・算数全体としては、どの学年も目標値に対して同程度か上回る正答率だった。基礎となる「数と計算」を中心に昨年よりポイントが上がっている。 ・観点別正答率では、ほとんどの学年が目標値を上回っていたが、4学年と6学年に「主体的に学習に取り組む態度」に課題が見られた。問題解決型の学習を意識して、児童の実態に応じながら自力解決できる授業を展開する。
理科	・理科全体としては、4学年5学年、6学年共に、ほぼ目標値と同程度か下回っていた。理科の学習への興味・関心を高め、知識の理解・定着を図り、学んだ学習内容を活用する能力を身に付ける必要がある。学習の復習が必要不可欠で、問題解決型の学習をより丁寧に進めていく。
外国語	・今年度から実施された外国語は、6年生のみが対象であつた。6年生は目標値に対してほぼ上回っていた。 ・観点別正答率においては、「知識・技能」「思考・判断・表現」は目標値に対して上回ったが、「主体的に学習に取り組む態度」が目標値を下回った。見直しをもって取り組むことができるような場の設定や、思考・判断が必要となる場の設定を意図的に行う必要がある。

本校の教育目標

元気な子

考える子

やりぬく子

仲よくする子

本校が児童に育成したい力

基礎基本の定着を図り、確かな学力を保證するために以下の力を育成する。

- ◎よく考え自ら学ぶ力・・・基礎的・基本的な学習内容を身に付け、問題解決に活用しようと、すすんで学習に取り組み、学習の向上に努力する。
- 最後までやりぬく力・・・あきらめない気持ちをもち、粘り強く取り組もうとする。すすんで課題に取り組み、その克服に努力をする。
- 考えを尊重する力・・・自他を尊重する気持ちをもち、すすんで互いに助け合い、共に高め合う。

学力向上にかかわる経営方針

- ◎基礎基本の定着を図る。
- 校内研究の取組を生かした、能力や特性に応じた「個別最適な学び」と互いに教え合い学び合う「協働的な学び」の一体的な充実
- 教科書やきたコンを活用した授業による、基礎的・基本的な知識・技能の習得及び思考力・判断力・表現力の伸長を目指す指導の充実
- ・朝読書、読み聞かせ、詩の暗唱等を通した「読み解く力」の育成
- ・朝学習の時間の有効活用、学力ファローアップ教室、家庭学習、補充学習の充実

校内における学力向上推進体制

校内研究や自己申告、年次研修、アドバイザー指導訪問等の様々な授業を通して、管理職やアドバイザーの先生方から指導を受けて改善を図り、研究主任や主幹、主任を中心とした校内研究で学んだことを日々の授業に継続的に実践していく。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
○授業の中で個別最適な学びと協働的な学び往還させて学習を進める。 ○校内研究で取り組んでいる、王三個別と協働の学びのサイクル、王三授業ベーシック、王三支援メソッドを意識して取り入れて学習を展開する。 ○算数の学習では少人数によるきめ細かな個に応じた学習指導を行う。 ○基礎的基本的な内容の定着を図るために、読み書き計算等の基本を繰り返し行う。 ○教科書やきたコンを活用して基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力の伸長を目指す。	○火、木曜日の朝を基礎基本の学習の時間として、計算や漢字等の基礎力の向上を図る。第2、4木曜日は読書タイムとし「読み聞かせ」や「読書」を行い、読書に慣れ親しむ態度と心情を育む。 ○年度末に年間指導計画の見直しを行い、児童の実態に応じて改善を図る。 ○学級園ボランティアと連携を図り、学級園等の環境を整え、体験的な学習を多く取り入れる。	○研究主題「児童が学ぶ楽しさを味わえる授業づくりー個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通してー」をテーマに、分科会ごとにテーマに沿って研究を行い、授業力を向上させる。 ○研修や教育研究会で得た資料や情報を共有し、さらなる授業力の向上を図る。 ○管理職からの授業観察の評価をもとに指導法を振り返り、改善をして、さらなる授業力の向上を目指す。	○各教科の単元後に形成的評価を実施し、個々の児童の変容を把握する。 ○指導計画と指導と評価の一体化した評価計画により評価を行う。 ○算数の学習では単元前にレディネステストを行い、効果的に指導するための習熟度別少人数編成を行う。 ○自己申告で、目標や手だてを定期的に見直し、改善を図る。	○スクールコーディネーターや学校評議員のシステムを生かして、教育ボランティア、保護者、地域の教育力を活用して多様な活動を学習に取り入れる。 ○学校公開や道徳授業地区公開講座等を通して、教育活動の発信を行う。 ○毎月の学習予定や内容などを学年便りで知らせる。 ○保護者や学校評議員による学校関係者評価を年度末に実施し、評価をもとに授業改善を行う。 ○保護者および地域に学習の定着状況を説明して改善案を提示する。